

2 特集  
世界に冠たる  
医療系総合大学を目指す新体制

巻頭座談会  
吉澤靖之学長就任  
未来の東京医科歯科大学を語る

8 新学長を支える副学長・部局長紹介

12 医療研究 ★ 最前線 未来医療を拓く  
分子薬理学分野 野田政樹教授

14 Focus on  
「スポーツサイエンス機構」新設

16 Focus on  
世界で活躍する医療人になるためのグローバル教育

18 附属病院 ◎ 診療科訪問  
歯学部附属病院 歯科衛生保健部

19 卒業生の今  
活躍する医科歯科人

20 医科歯科大生 file  
自ら問い、自ら導く学生たち

21 医科歯科百景  
夢を力に 2014 日本最大級のシティドレッシング

22 Campus Information

巻頭座談会

吉澤靖之学長就任  
未来の東京医科歯科大学を語る

2014年4月、第11代学長に吉澤靖之学長が就任し、新体制での東京医科歯科大学が動き始めた。「知と癒しの匠を創造し、国内外に展開して世界に冠たる医療系総合大学へ」というミッションをどのように実現するのか……。教育、研究、医療など各分野を担当する理事が集い、これからの東京医科歯科大学の未来について語り合った。

吉澤靖之 学長

烏山一 理事・副学長(企画・大学改革担当)

田上順次 理事・副学長(教育・学生・国際交流担当)

森田育男 理事・副学長(研究・国際展開担当)

田中雄二郎 理事・副学長(医療・国際協力担当)

高橋茂樹 理事(法務・コンプライアンス担当)

吉澤学長 本学は2014年4月から新たな体制となりました。ミッションの具現化に向けて、さらなる大学改革を推進していきます。そのため、大学の運営の基本方針について、まず私からご説明します。

新体制では、学長、理事直属の指揮系統をより明確にし、「学長のリーダーシップ」と「愛校心」という基本方針に基づいて大学を運営していきます。理事の担当分野としては、従来の「企画・国際交流担当」と「法務・コンプライアンス担当」という分野を新設しました。さらに、各理事の担当に、その分野で国際化を目指すという役割を加えています。従いまして「教育・学生・国際交流担当」「研究・国際展開担当」「医療・国際協力担当」という計5つの担当分野の理事の下に副理事を配置し、全学で議論しながら大学運営を推進し得る体制を整えました。様々な議論を行う中核を担うのが統合戦略会議であり、5つの分野の垣根を越えて多角的な意見を交えられる場を目指しています。ミッションを実現するためのポイントの1つが、医学部、歯学部、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所という全学体制で大学運営に取り組むことです。研究もしくは

特集

世界に冠たる医療系総合大学を 目指す新体制

臨床、医学もしくは歯学など、どちらかに偏ることなく全学を挙げて知と癒しの匠を創造し、かつ各部門の一人ひとりが個の力を発揮できる環境にしていきたいと考えています。最初に述べた「愛校心」とはまさにそのことで、全教職員が東京医科歯科大学のアイデンティティを共有することで世界に冠たる医療系総合大学が実現できるものと考えています。

それでは、理事の皆さんに各担当分野の計画を具体的にどのように推進していくのかご説明いただきたいと思えます。まずは企画・大学改革担当の烏山理事からお願いします。烏山理事 この度新しく、学長直属の「学長企画室」と「統合戦略会議」という2つの組織を設置しました。これまででは大学運営にあたり、教育、研究、医療などの分野別に議論を行っており、分野間のコミュニケーションが必ずしも十分にとれていなかったわけではありませんでした。そこで、担当分野の理事同士で情報共有をしつかりと行う目的で統合戦略会議を設けたのです。

例えば、推進協議会や戦略会議で議論された分野ごとの案件は、役員会にかかる前に統合戦略会議で検討されます。役員会が月1回開催であ



るのに対して、統合戦略会議は月に2回開催ですから、理事間の情報共有をこれまで以上に深めることで、横断的な議論に基づいた画期的な提案をしていきたいと考えています。

一方で、学長の立案による何らかのプランを実行するとなった場合、マネジメントする事務組織が必要になります。学長企画室はその役割を担う組織で、従来は総務企画課が担っていたガバナンス関連の案件を直接扱います。こうした新体制により、大学改革やガバナンスがよりスピーディーに進められると考えています。

面もあります。私自身も理事になる前の一教員のときはそうでした。そこで、FD研修の際には、国立大学を取り巻く社会環境の変化といった背景から順序立てて説明して理解を促す必要があると考えています。

**吉澤学長** ありがとうございます。次に、教育面についてはいかがでしょうか。田上理事お願いします。

**田上理事** 教育・学生・国際交流につきましても、まず入試改革を進めていきます。同じ医療系といっても医科と歯科など学科によって学生の傾向は異なりますので、学科の特徴を踏まえたうえで、より良い学生を受け入れるための入試改革が必要ではないかと考えています。すでに入



Yoshizawa Yasuyuki

### 吉澤靖之 学長

学試験委員会では、学長の諮問を受けたワーキンググループが動き始めています。具体的には、飛び入学や学内での転科、東京工業大学、東京外国語大学、一橋大学との4大学連合内での転学の可能性といったことも含め検討を進めていきます。

国際交流を視野に入れて、グローバル人材育成のための教養教育改革については、従来の教養課程が1年間に短縮された代わりに、学生が進学して成熟する2年次以降の専門課程内でも教養を学べる機会を設けています。グローバルに活躍するとすると、日本の文化や歴史について海外の研究者たちと話す機会も増えるでしょうから、英語による教養教育の提供も検討事項の1つです。

**吉澤学長** 2015年4月からは学校教育法も国立大学法人法も変わりますし、入試改革は急務ですね。英

語の必修化など、教育面で改革すべきことは増えていくと思います。

**田上理事** まさにその通りでしょう。一方で、4年目を迎えた医歯学融合教育については、徐々にその成果が表れつつあるようです。医療面では他大学や薬学部の学生も含めた「チーム医療入門」という科目で、医歯学融合での臨床教育が始まっています。

大学院については大学院重点化により医学、歯学ともに本学部卒業生をはるかに上回る大学院生が学んでいます。いずれも定員を超える志願率ですが、今後さらに強化すべきは教育の質です。本学の留学生の多さは他大学に類を見ませんが、大学のグローバル化を考えると、さらに留学生を増やすことも必要でしょう。

最近では、留学生の間で臨床トレーニングをしたいという問い合わせが増えていきます。厚生労働省によ



Karasuyama Hajime

### 烏山 一 理事・副学長(企画・大学改革担当)

り外国人の医師・歯科医師の修練制度が定められています。数々の制約が多く、実際に行うのは大変難しいのが現状です。これについては厚労省内でも見直しが進められているようですが、本学からも積極的に意見を上げていくようにすべきかもしれません。

**吉澤学長** では次に、研究面についてどうでしょうか。森田理事お願いします。

**森田理事** 本学は、昨年度から研究大学強化促進事業に採択されました。採択準備段階やその後の情報を分析してみると、本学における研究面の強み、弱みが明らかになりました。

本学の強みの1つに、1論文当たりの被引用率がアジアの大学でトップだということが挙げられます。他大学では一握りの極めて優秀な研究者の論文が被引用率を高めていることが多いですが、本学においては全ての論文が等しく引用されていることが特長です。しかも海外の研究者との共同研究はさほど多くないにもかかわらずこれだけ被引用率が高いのですから、それぞれが自分の研究の質をもう1ランク上げ、国際共同研究などに発展させることができれば知名度も被引用率も飛躍的に上がるのではと想定しています。



一方、今後強化すべき点としては、国際展開でしよう。田上理事がおっしゃったように、本学大学院には多くの留学生がいますが、さらなる試みが必要です。例えば、優秀な留学生が本学の博士課程を修了して帰国したり、渡米したりするのはなく、そのまま本学に残ってポスドクとして働いてもらえるような環境整備も必要だと考えています。

**田上理事** その点は教育面でも同様で、現在は国費留学生が大半ですが、これからは私費留学生も獲得することを考えなければなりません。今以上に研究成果を上げ、広く世界に本学をアピールしていくことで、おのずと優秀な学生が集まってくると思っています。

**森田理事** 先ほどの留学生をポスドクとして定着してもらう件とも関連しますね。そして、研究面では産学

連携も重要な項目です。本学は文部科学省や経済産業省のプログラムを利用して、医学系の産学連携活動を数多く推進しています。ソニーとの共同研究のほか、現在トレンドになりつつある核酸医薬に関する大型プロジェクトが進行中で、今年度中には大学発ベンチャーに育ちそうな勢いです。これらを背景に知的財産戦略などを含めた戦略立案などを行うのが医療イノベーション推進センターです。出口戦略を見据えた研究を支援し、迅速な製品化やライセンスを行う機能を担います。同センターには、契約、知的財産管理から倫理審査、研究計画支援を行う専門スタッフを配属しており、今年度から本格始動することになりました。

さらに同センターでは、外部資金の公募情報提供、申請書作成のサポート、若手研究者に向けた申請書



Tagami Junji

### 田上順次 理事・副学長(教育・学生・国際交流担当)

の書き方指導など、研究者のための支援を幅広く行います。科研費申請が通らなかつた研究者には学長裁量経費を出していただき、次年度の申請まで支援することが決まりました。

**吉澤学長** 従来は各研究プロジェクトのフォローアップを学長裁量経費で支援することが多かったのですが、これからは若手研究者の研究支援のためにも積極的に使うことにしました。

**森田理事** そうした取り組みは、10年後に世界の大学ランキングで100位以内に入るという目標に向けたものですが、外国人教員の少なさや海外における本学の知名度向上なども課題です。そのためには、教育、研究、臨床と全ての力を結集して知名度を上げていくことが重要でしょう。単科大学がベスト100に入るのは容易ではないかもしれませんが、実現に向けて取り組みたいと考えています。

**吉澤学長** 研究力強化のためにもぜひお願いします。次に、医療担当分野の計画について田中理事にお聞きします。

**田中理事** 本学には医学部附属病院と歯学部附属病院の2つがあり、患者さんはそれぞれの病院に掛かっていると思っておりますが、医学部・歯

のような支援を継続的に実施してきた実績があり、チリから周辺のアジアやエクアドルへと活動の範囲が広がっています。

タイについては歯学部が長らく交流してきたチュラロンコン大学が中心となり、インドネシアやベトナムなど東アジアの歯科医療の水準を高めるための活動に取り組んでいるところではあります。

**吉澤学長** 国際交流をするうえで重要なのは人材育成です。単に内視鏡技術を教えるのではなく、その土地で「知と癒しの匠」となる人材を育てていく必要がありますので、国際的な医療活動はさらに活性化できればと考えています。

最後に、法務・コンプライアンス担当の高橋理事にお聞きします。今回新しい組織を作るにあたって、他大学の組織や運営体制を調べましたが、コンプライアンス担当を設置している大学が増えつつあるようです。大学にとってもそれだけコンプライアンスの問題が重要であると考えています。

**高橋理事** 今やコンプライアンス違反は企業や組織にとって致命傷にもなりかねません。ただ、学内の全てに目を配ることは不可能ですので、教職員一人ひとりの自己意識が大切と

学部の分け隔てなく「東京医科歯科大学の病院に掛かっている」と思ってもらえることを目指したいと考えています。そのためにも医科、歯科の両方の電子カルテシステムを統一し、医学部で手術を受ける前に口腔内のケアを受けられるといった新しいサービスも検討中です。咽頭がんや舌がんなどについては、すでに歯学部との口腔外科と医学部の頭頸部外科が密接に連携するなど、診療において医科と歯科の連携はスムーズに進んでいます。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた計画も推進しています。本学には従来スポーツ医学診療センターがあり、スポーツ外傷の治療や日本最大の高気圧酸素治療、早期回復のためのリハビリテーションなど、アスリートが早期かつ高レベルで競技復帰できるようサポートしてきました。

10月に開設するスポーツサイエンスセンターには、陸上男子ハンマー投げのアテネオリンピック金メダリストである室伏広治氏を教授として招き、科学的な裏付けに基づいた傷害の予防や早期のリハビリテーションなどを行っています。同センターでは、現在活躍しているアスリートたちが2020年にも現役でオリンピック

「この新しい体制になってまだ日が浅いのですが、植えられたばかりの木にもかかわらず、すでに大地に根付いたという実感があります」

吉澤靖之学長

に出場できることを目標に、科学的なメンタル・フィジカルトレーニングの開発をしていきます。こうした研究は同時に、高齢者でも運動を続けることができる健康長寿社会に貢献するものであり、QOLの維持や予防医学につながることを期待しています。さらに、ゲノム情報を活用したテーラーメイドの先進医療などを行う、長寿健康推進センターの設立も計画しています。



Morita Ikuo

**森田育男**  
理事・副学長(研究・国際展開担当)



Tanaka Yujiro

**田中雄二郎**  
理事・副学長(医療・国際協力担当)

なります。吉澤学長のおっしゃる「愛校心」がそれにあたると思いますが、組織の一員として、自分の大学を良くしていこうという意識を根付かせるのが私の仕事だと考えています。

私は2004年の国立大学法人化以来、非常勤監事として本学でコンプライアンスにかかわってきました。従来の第3者的な立場である監事に対して、今回は理事として担当することになりますので、学内から見ていくことになりました。統合戦略会議にも出席するようになり、学内の情報もたくさん入ってきます。監事が事後の対処を行う病気の治療だとすれば、コンプライアンスは法令や社会規範を順守しながら経営を行う予防医学のようなものだと思います。

社会が変われば大学も変わらなければなりませんし、法人化した途端

に競争原理が働きます。そうした中では手段を選ばずということもあり得るため、コンプライアンスの重要性が増すのです。そういった意識を学内の教職員に根付かせることも重要な役割だと考えています。

**吉澤学長** 教員の皆さんが教育や研究に安心・安全に打ち込める環境作りという意味でもコンプライアンスは大切ですし、どの分野にとっても欠かせないことだと思います。この新しい体制になってまだ日が浅いのですが、植えられたばかりの木にもかかわらず、すでに大地に根付いたという実感があります。これからは、幹が育ち、枝がで、花が咲き、いづれ実をつけるでしょう。それまで担当理事の皆さんをはじめ、全教職員、学生と共に未来の東京医科歯科大学を描いていければと願っています。



Takahashi Shigeki

**高橋茂樹**  
理事(法務・コンプライアンス担当)